

再 評 価 調 査 書

整 理 番 号	4
担当部課名	土木部河川課

1 事業概要

(1) 事業名	通常砂防事業	(2) 名称	田尻沢
(3) 事業主体	茨城県	(4) 箇所名	日立市田尻町
(5) 採択年度	令和2年度（2020年度）	(6) 完成予定年度	令和11年度（2029年度）
(7) 事業目的	・土石流対策として、砂防堰堤を整備し、当該区域及び下流に存する人家や公共施設の保全を図る。		
(8) 事業内容	・砂防堰堤 N=5 基 ・溪流保全工 L=4,710m		

2 再評価の理由

(1) 再評価の理由	5年経過	(2) 当初完成予定	令和11年度（2029年度）
(3) 未着工・事業が長期間要している理由	－		
(4) 前回指摘事項に対する対応状況（再々評価の場合）	委員会の意見	対 応 状 況	
	－	－	

3 事業計画の変更

(1) 完成年度の変更	－
	－
(2) 事業内容の変更	－
(3) 事業費の変更	－
	－

4 進捗状況と今後の見通し

(1) 事業進捗状況		全 体	前年度	前年度まで	進捗率
事業量(基)※単位を記載		5	1	1	20.0%
事業費	工事費	836	99	321	38.4%
	用地買収補償費	63	0	0	0.0%
	計(百万円)	899	99	321	35.7%
(2) 関連事業の進捗状況		－			
(3) 今後の見通し	工 事		用 地 等		
	現在施工中である5号堰堤の本体工事と併せ、4号堰堤の設計を進めていく他、残る堰堤についても優先順位を付け事業を進めていく。		各堰堤の設計の進捗に合わせ、国有林の所管替え手続きおよび用地買収を行っていく。		

5 評価内容

(1) 事業の必要性	近年の気候変動の影響などに伴い、集中豪雨が頻発化、激甚化しており、土石流発生の危険性はますます高まっている。一度土石流が発生すれば、下流域の人家や公共施設等に多大な被害を引き起こす可能性が高いため、住民の生命や財産を保護するために事業の必要性は高い。											
	社会情勢等の変化に関する指標 1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標 2	計画時の状況	現時点での状況						
	保全人家	25 戸	22 戸	公共施設(市道)	市道 1, 310m	市道 1, 310m						
(2) 事業の有効性	砂防施設を整備することにより、想定される土石流被害から人家や公共施設を保全する。											
	効果予測に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標 2	事業なし	事業あり						
	被害人家戸数	22 戸	0 戸	公共施設(市道)	市道 1, 310m	市道 0m						
	効果算定要因に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標 2	事業なし	事業あり						
	-	-	-	-	-	-						
(3) 事業の効率性	ア) 主な効果 (B) ① 砂防堰堤を整備することにより、土石流被害を未然に防ぐことができることから、資産被害抑止効果(家屋等 836 百万円、農作物 2 百万円、公共土木施設 411 百万円)、及び人身被害抑止効果等(973 百万円)が図られる。(合計 2,222 百万円) ②下流域への流出土砂量を低減し、土砂・洪水氾濫を防止・軽減する効果。 ③地域の安全性が高まり、宅地化など土地利用が促進される効果。 イ) 主な費用 (C) <table><tr><td>① 事業費</td><td>894 百万円</td></tr><tr><td>② 維持管理費</td><td>26 百万円</td></tr><tr><td>合計</td><td>920 百万円</td></tr></table> 主な効果のうち貨幣化が可能な①について事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C = 2.41						① 事業費	894 百万円	② 維持管理費	26 百万円	合計	920 百万円
① 事業費	894 百万円											
② 維持管理費	26 百万円											
合計	920 百万円											
(4) 地元の意向	・日立市から事業推進を要望されている。(令和6年8月7日)											
(5) コスト縮減や代替案立案の可能性	・伐採木について、全てを再資源化処理施設へ運搬するのではなく、可能な限り有価物として処理することでコスト縮減を図る。											

6 対応方針

土石流被害を未然に防止するために事業を実施し、人家及び公共施設等の保護を図り、令和11年度事業完了を目指す。

7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

8 委員会の意見を踏まえた対応

委員会の指摘を踏まえ、現計画に沿って早期完成を目指し、事業を進める。

